志摩市のまちづくりに関するアンケート調査

調査目的

平成26年度と27年度における今後10年のまちづくりの指針となる「第2次志摩市総合計画」の策定におけるまちづくりの方向や施策の選択について、市民の意識・評価を把握するために実施した。

調査概要

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 詳細 |
| 調査の名称 | 志摩市のまちづくりに関する市民アンケート調査 |
| 母集団 | 市内在住の満20歳以上の方 |
| 調査対象者 | 3,000人 |
| サンプリング方法 | 無作為抽出 |
| 抽出台帳 | 住民基本台帳 |
| 調査票配布回収 | 対象者に調査票を郵送し、回答後、郵送にて回収 |
| 実査時期 | 平成26年9月19日～10月10日（金） |
| 回収数（回収率） | 993（33.1％） |

■志摩市全体のイメージやまちへの愛着についておたずねします

問1　現在の志摩市について浮かぶイメージは何でしょう？（３つまで）

○「自然が豊か（約55％）」、「気候が穏やか（約50％）」、「海辺のまち（約40％）」、「風景が美しい（約30％）」など自然環境に関するイメージが多くを占めている。



問2　あなたは、志摩市に愛着や誇りを感じますか？（１つ）

○「感じる」、「どちらかといえば感じる」を合わせると約70％となり、多くの市民が愛着・誇りを感じている。また、「どちらかと言えば感じない」、「感じない」の回答は共に少数である。

　　

■暮らす場所としての現在の志摩市についておたずねします

問3　あなたは、現在の志摩市が住みやすいと思いますか？（１つ）

○「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせると約55％となり、半数強の市民が住みやすさを感じている。また、「どちらかと言えば住みにくい」、「住みにくい」の回答は合わせて約20％である。

　　

副問1（問3で「1.住みやすい」又は「２.どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお聞きします）  
住みやすい理由は何ですか？（２つまで）

○「自然環境に恵まれているから」、「安全で安心なまちだから」の回答が多くなっている。

○「仕事場が近いから」、「病院や診療所が便利だから」、「交通が便利だから」といった生活の利便性の高さに関する回答は非常に少なくなっている。



副問2（問3で「4.どちらかといえば住みにくい」又は「5.住みにくい」と答えた方にお聞きします）  
住みにくい理由は何ですか？（２つまで）

○「病院や診療所が不便だから」、「交通が不便だから」、「買物が不便だから」の回答が多く、副問1の住みやすさで評価の低かった、日常生活に必要な施設と移動手段に関してが住みにくさの主な理由となっている。



問4　あなたは、これからも志摩市に住み続けたいと思いますか？（１つ）

○「現在と同じ住所に住み続けたいと思う」の回答が約60％と半数以上を占める。市内の別の住所（7.5％）・及び県内の別の市町（8.0％）への転居意志はそれぞれ10％未満である。また、県外への転居意志は3.9％とさらに低い値となっている。

　　

副問1（問4で「2」又は「3」又は「4」、転居したいと答えた方にお聞きします）  
転居したい理由は何ですか？（１つ）

○「地域の環境」、「自身や家族の健康や介護」の回答が多くなっている。

　　

副問2（問4で「3」又は「4」、志摩市外へ転居したいと答えた方にお聞きします）  
志摩市外へ転居した後、また志摩市へ戻りたいと思いますか？（１つ）

○「わからない」の回答が約50％と最も多くなっている。

○「戻りたくない」の回答が約40％となっており、また「戻りたい」の回答が約5％と非常に少なくなっていることから、一度転出した市民が将来志摩市へ戻ってくる可能性は非常に低い。

　　

■志摩市が取り組んできた主な施策についておたずねします

問5　(1)～(53)の分野別の施策について、あなたが「どのくらい満足しているか」（満足度）、「今後も取り組みが必要か」（必要度）をお聞きします。①満足度、②必要度の各々について、５点満点であなたの考えに最も近いものを１つずつ選んで○をつけてください。





※加重平均値は、以下のように算出

満足度：「満足」=5点，「ほぼ満足」=4点，「普通」=3点，「やや不満」=2点，「不満」=1点，として算出

重要度：「必要」=5点，「やや必要」=4点，「普通」=3点，「あまり必要ない」=2点，「必要ない」=1点，として算出

■人口減少、少子・高齢化に対応したまちづくりについて

志摩市では、今後さらに、人口の減少、少子化、高齢化が続くものと考えられ、これを前提としたまちづくりを進める必要があります。今後のまちづくりの方向について、おたずねします。

問6　広い地域に少数の人が分散して暮らすのではなく、住宅や公共施設をある程度集約して、まちを小さく便利にすることについて、どのようにお考えですか？（１つ）

○「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると約30％で、「反対」と「どちらかと言えば反対」をあわせると約20％となっており、やや賛成が多いが賛否は拮抗していると言える。

○「どちらともいえない」の回答が約40％と多く、集約の姿を具体に示し、判断・意思表示が可能となるよう情報提供等を行っていくことが必要である。

　　

問7　人口の減少等によってまちの姿が変わることに伴い、公共施設のあり方や数・配置を見直していくことも考えられます。あなたは、どのような施設ならば集約を検討しても良いと思いますか？（あてはまるものすべて）

○「学校」、「文化会館」、「生涯スポーツ施設」の回答がやや多くなっているが、回答は分散しており、回答者の生活様態等によって差異があると考えられる。

○居住地選択に関わる「住宅」や緊急時に備えた「消防団施設」の回答は少なくなっている。



問8　地域の施設や自然の管理、まちづくりの取り組みなどを、市役所に任せてしまうのではなく、今以上に地域・市民が主体となって進めることについて、どのようにお考えですか？（１つ）

○「賛成」と「どちらかといえば賛成」とを合わせると約50％であり、「どちらかといえば反対」と「反対」の回答が合わせて6.8％であることから、地域・市民主体の推進への理解は大きいと考えられる。

○「どちらでもない」の回答が約30％と多く、判断・意思表示が可能なよう情報提供を進めることも必要である。

　　

副問 （問8で「1.賛成」又は「2.どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします）  
地域・市民の役割としてどのような負担が増えても良いと思いますか？（あてはるものすべて）

○「労力の提供（約50％）」と「時間的な負担（約50％）」の回答が多く、「土地や施設の提供（約35％）」が続いていることから、多様な役割を担う理解があると考えられる。

○「経済的な負担（約14％）」については回答が少なく、金銭的な協力の獲得にはさらなる検討が必要である。



問9　高齢者が一層増え、若者が減るなかで、高齢者の力をまちづくりや福祉サービスの提供などに積極的に活用することについて、どのようにお考えですか？（１つ）

○「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると約70％となり、また、「どちらかといえば反対」と「反対」は合わせて約2.5％と少数であることから、理解は概ね獲得できていると考えられる。

　　

問10　人口の減少を少しでも食い止めて高齢化を抑えるために、若者が住み、子どもを産んで育てられるまちをつくることが必要です。そのために最も必要なことは何だと思いますか？（１つ）

○「若者の働く場をつくる」が約60％と最も多くなっており、就業の場が求められている。次いでは、「子育てしやすい環境をつくる」が約20％と続いている。

　　

■「新しい里海創生によるまちづくり」についておたずねします

問11　現在、市の重点施策として取り組んでいる「新しい里海創生によるまちづくり」について、あなたはどのくらいご存じですか？（１つ）

○名称については約80％の回答者が知っていると回答しているが、考え方についても知っているとの回答者は約30％、取組み内容についても知識のある回答者は約10％程度となっている。また、名前も聞いたことがないとの回答も約15％ある。考え方や取り組み内容に重点を置いた情報提供が必要である。

　

問12　新しい里海の創生に向けて、市民の皆さんと関わりのある取り組みがたくさんあります。あなたが興味を持ったり、参加しても良いと思われるものを選んでください。

(1) 里海の自然環境の保全と管理を進めるために（あてはまるものすべて）

○「生活排水の対策（約45％）」と「市民が守るべきルールの策定（約45％）」が多くを占めている。また、「簡易な調査への参加（約15％）」の回答が低くなっているが、ルール化・日常の習慣といった他の選択肢と比較して、専門性が高いとの解釈があった等の理由が考えられる。



(2) 里海の資源を農林水産業や商工観光業などで活用するために（あてはまるものすべて）

○「地元食材の使用（約50％）」や「漁場の保全・改善（約45％）」の回答が多くなっている。

○「イベントへの参加（約25％）」がやや低くなっている。



(3) 里海の素晴らしさや価値を学び、地域・人づくりに結びつけるために（あてはまるものすべて）

○「学校での教育」が約60％と多く、「学習会等への参加」、「魅力のガイド」等はそれぞれ約30％程度とやや低くなっている。



(4) 地域内外の人が里海で遊び豊かな生活を楽しむために（あてはまるものすべて）

○「イベントへの参加」が約50％と多く、次いで「防災訓練への参加」、「清掃活動への参加」が共に約35％と続いている。



(5) 里海のイメージアップと情報発信のために（あてはまるものすべて）

○「市外の人への伝達」と「特産品の使用」が共に約50％と多く、「特産品づくりや改善等への参加」は約30％とやや低くなっている。



■自然災害から生命・財産・まちを守る防災についておたずねします

問13　あなたが、出会うのではないかと心配されている自然災害は何ですか？（あてはまるものすべて）

○「地震（約85％）」と「津波（約70％）」の回答が多く、次いで「風災害（約45％）」、「大雨・集中豪雨（約40％）」と続いている。

○30年以内の発生が予想されている南海トラフ地震が大きく意識されていると考えられる。



問14　災害で避難が必要になった際に、あなたが心配なことは何ですか？（３つまで）

○「生活必需品の確保」が約60％と最も多く、次いで「家族との連絡（約50％）」、「避難路や避難経路（約40％）」と続いている。



問15　大規模な災害が発生し、住民同士の助け合いが必要となった場合に、あなたは何ができると思いますか？（あてはまるのもすべて）

○「救助活動（約40％）」や「安否確認作業（約35％）」の回答が多くなっている。

○「負傷者のケア（約15％）」や「備蓄食料の提供（約10％）」、「井戸水の提供（約15％）」、「自宅スペースの提供（約15％）」の回答は低くなっており、救助後のケアや被災者への物品等の提供までは困難との意識が窺える。



問16　災害に備えて市などの行政が重点的に取り組むべき防災対策は何でしょう？（３つまで）

○「医療・救護体制の充実（約60％）」、「生活必需品の提供（約55％）」、「ライフライン対策（約35％）」の回答が多くなっている。次いで「避難所となる施設の整備（約30％）」の回答も多くなっている。



■市役所からのお知らせについておたずねします

問17　現在、市役所から各戸へ配布している「広報しま」についてお聞きします。

(1)「広報しま」を読んでいますか？（１つ）

○約75％の回答者が「読んでいる」と回答し、「読んでいない」との回答は約20％となっている。

　　

副問 （問17(1)で「1.読んでいる」と答えた方にお聞きします）  
どのように「広報しま」を入手または読んでいますか？（１つ）

○「自治会による各戸配布」及び「自治会による回覧」を合わせて全体の約95％となっている。

　　

(2)今後、「広報しま」をどのように入手または読みたいですか？（１つ）

○「自治会による各戸配布」が約60％となっている。その他、少数ながら、「ホームページでの閲覧（約6％）や公共施設やSCで設置されているものを入手（約7％）のニーズもある。

　　

■あなたご自身（現在）のことについておたずねします

問18　(1)～(8)すべてにお答えください。

(1) 性別（１つ）

　　

(2) 年齢（１つ）

　　

(3) 居住地区（１つ）

　　

(4) 志摩市での居住年数（１つ）

　　

(5) 志摩市での居住歴（１つ）

　　

(6) 家族形態（１つ）

　　

(7) 職業（１つ）



(8) 就業先、または就学先（１つ）

